

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程・学習指導	①確かな学力の育成と、生徒が課題を発見し解決に向けて主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせるカリキュラムマネジメントを行う。 ②デジタル社会で求められる力を身に付け、文理横断的・探究的な学びを充実させ、生涯にわたり挑戦し学び続ける力の基礎を培う。	①基礎的な知識や技能の定着を図るとともに、自らが課題を発見し、それを解決しようとする姿勢を育む。フォローアップ週間や学習支援アプリの活用を促し、生徒の家庭学習習慣の定着に努める。 ②様々なICTの活用や適切なデータ処理の知識・技能を身に付け、探究的な学びを充実させる基礎を培う。	①各教科科目の授業において、探究的な学びの視点を取り入れた授業改善に取り組む。フォローアップ週間の実施形態や学習支援アプリの授業外での活用方法を検討し、定期試験の直前だけでなく日頃から主体的に学習する仕組みを整える。 ②整備したICT機器を総合的な探究の時間を中心に生徒が必要に応じて利用できるような仕組みを整え、ICTの活用及びデータ処理が行える知識・技能を身に付けさせる。	①生徒による授業評価アンケートの、「課題解決」に関わる項目で肯定的な回答の割合が増加したか。フォローアップ週間、学習支援アプリについて生徒の活用する意識が育まれたか。 ②整備したICT機器に関して、生徒の積極的な利用を推進できたか。探究的な学びに活用できたか。	①半数の教科で授業評価アンケートの「課題解決」に関わる項目で肯定的な回答の割合が増加した。フォローアップ週間以外でも各教科が自習用教材を設置し、利用する生徒が見られた。 ②整備したICT機器を利用した出前授業や、使用方法の講習会を実施した。総合的な探究の時間で生徒が機器を活用し、データ収集・分析を行った。	①学習支援アプリの一人あたり利用時間が減少する傾向が見られた。利用時間が増えている生徒もいるため原因を分析し、生徒への働きかけの方法の再検討が必要である。 ②出前授業の参加生徒や機器の生徒利用をさらに増やすために、マニュアルの整備や教科の授業で活用し周知に努める。	①電子黒板を有効活用し、協働的な学びに力を入れている。 ①授業評価で一部低い評価がある。教科特性等の分析を踏まえ改善を図るべき。 ②新たに導入した電子機器の一層の活用を期待する。	①「課題解決」に関わる取組を推進できた。生徒の学習意欲を喚起する取組ができた。学習支援アプリの活用状況を改善したい。 ②整備したICT機器について出前授業や講習会を実施し、生徒のデータ収集・分析の環境整備を図った。授業でのより一層の活用を図る。	①探究的な学びの視点を取り入れた授業改善を継続し、学習支援アプリの活用を工夫する。 ②機器の利用率向上に向けて、より身近で使いやすい環境を整備していく。職員のスキルアップのためのマニュアル整備を行う。
2	生徒指導・支援	①誠実で良識ある有為な人材の育成をめざし、自他の人格や個性を尊重する協調性を涵養する。 ②生徒に寄り添い心身ともに健康な生活が送れるように支援を行う。 ③部活動や学校行事等を通じて、生徒が主体的に関わりをもち、他者との協働する力を育み、達成感や自己肯定感の醸成となる指導・助言を行う。	①正しい行動やマナーについて、生徒自身で考え、生徒同士で指摘しあい、地域の一員としての意識を涵養する ②教育相談体制を充実し、適切に生徒へ情報を提示していく。また、職員間で情報共有を定期的に行い、支援体制を整備するとともに、安全で安心な環境作りを努める。 ③部活動や学校行事等の全ての活動において、主体性を育み、支援する。	①服装、自転車や公共交通機関でのマナー、SNSの使い方等について段階的かつ継続的な指導を行う。また、生徒同士で指摘しあえるよう指導する。 ②定期的に生徒情報共有会を開催し、生徒の適切な支援体制の充実を努める。また、学校生活におけるアンケート結果を共有し、適切な支援方針を打ち出していく。 ③生徒会本部役員会や部長会、委員会等を定期的に開催し、学校行事や部活動における生徒の主体的な活動を支援する	①登下校時等の服装やマナーに関する指導件数及び地域住民からの指摘が減少し、地域社会の一員としての規範意識が育まれたか。 ②コーディネーター会議を中心とした支援体制が整い、適切に情報と方針の共有ができたか。また、学校生活におけるアンケートから適切な支援ができたか。 ③職員から指示を与える場面が減り、生徒達が考え自発的に行動することができたか。	①体育祭幹部による各クラスでの声掛けや集会等での周知、生徒会本部役員による朝の声掛け等で生徒の規範意識を高めることができた。 ②学校生活に関するアンケートを適切に利用し、スクリーニング会議と生徒情報共有会を通して、生徒それぞれの支援体制を考えることができた。 ③生徒会本部役員会や部長会、委員会等を定期的に開催し、生徒の主体的な活動を支援する体制が整った。	①生徒が主体的に考え行動ができるよう支援していく。生徒間で指摘し合う環境作りをさらに進めたい。 ②カウンセリングを受ける生徒・保護者が増えてきている。気軽にカウンセリングを受けられる体制作りはまだ必要である。 ③学校行事後のアンケートでは多くの肯定的な回答を得ることができた。生徒が主体的に動き、注意喚起等もできている成果が出ていると考える。	①生徒間で考え実行する態度を育成している。試行錯誤を経て達成感や他者理解を育む取組をさらに進めてほしい。 ②生徒・保護者の心のケアに組織的に支援を行っている。 ③生徒主体の行事となるよう職員の指導助言が効果を発揮している。	①生徒が主体的に考え、行動する環境作りを行った。 ②生徒情報共有を適切に行い、生徒一人ひとりの支援体制を考えることができた。カウンセリングをより身近なものとなるよう周知を工夫する。 ③様々な場面で生徒の主体的な活動を支援する体制が整った。意欲喚起となる職員の関わり方、助言方法を考えていく。	①引き続き、生徒間で話し合い考える環境をさらに進め、達成感や自己肯定感の涵養に向けて仕掛けづくりを行っていく。 ②カウンセリングについて生徒・保護者への周知方法を工夫する。 ③生徒育成のために職員の関わり方、立ち位置等を考え、よき助言者となるよう工夫する。
3	進路指導・支援	①生徒が自らの生き方について主体的に考え、多様な選択肢の中から将来の道を選び拓けるキャリア教育を行う。 ②社会の一員として、自己肯定感をもって社会で活躍できる人材を育み、卒業後のビジョンを明確にする。	①幅広く経験を積み、自らの可能性を広げ、高い目標を設定できるようにするとともに、課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組む力を育成し、自分自身のキャリアにつなげる。 ②社会との関わりを意識させ、他者と協働しながら学びあう態度と生涯にわたり挑戦し続ける力を育み、社会で活躍できる人材育成に努める。	①学校内外の活動等においてキャリア教育を計画し、生涯学習につながる活動にするとともに、その過程で高い目標を設定し進路実現に向け目指す自己像を意識させる。 ②進路ガイダンス等で、キャリア教育について主体的に考え、取り組める体験の充実を図り、キャリアパスポート等で目標設定・振り返りを行う。	①様々な学校内外の活動等で培った主体的な学びが、進路実現の活動に活かされ高い目標設定での進路実現ができたか。課題を発見し、解決に向けて計画・行動できたか。 ②進路ガイダンスやキャリアパスポートによる振り返りの中で、自己分析し、次のステップへの蓄積ができたか。また、蓄積した内容を次の活動につなげることができたか。	①進路ガイダンスを通じ、多様な選択肢に触れる機会を確保した。面接・小論文等の対策講座により、進路実現に必要な実践的スキルを習得させ、自己像を意識した活動を展開できた。 ②インターンシップを実施し、社会との接点を構築した。キャリアパスポートを活用した振り返りにより、自己分析の深化を図るとともに、活動の蓄積を次へのステップに繋げる意識付けを行った。	①業者模試の結果が伸びず、モチベーションの低下が見られた。結果のみに捉われず、弱点克服に意識をめぐらせ、困難に挑戦し続ける「主体的に取り組む力」を育成する。 ②各行事の学びを、日常の学習意欲により結びつけるため、キャリアパスポートの記述内容を具体化させ、生涯学習の基盤となる自己肯定感と挑戦する態度を育む。	①進路指導計画を保護者に分かりやすいものとする。 ②探究的学習の発表会等、自ら課題を設定し調査研究する力を育む取組がある。 ②地域との関わりから社会性の育成を図っている。	①進路ガイダンス等、生徒の進路活動の支援ができた。保護者のニーズ等にあった説明会を計画する。 ②インターンシップを通じて社会との接点を体感できるものとした。インターンシップの理解を進める。	①生徒の学力向上と実力養成のための取組を考える。業者模試を振り返り、効果等の検証、活用方法等について検討する。 ②意欲ある生徒のインターンシップ参加増を図る。探究的学習では、身近な課題解決の視点を持つよう指導助言する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①地域での学校の役割を意識し、地域との連携・協働を深め、地域のニーズに応え、地域の活性化に貢献できる開かれた学校づくりに取り組む。	①学校コミュニティをつくるため、地域活動を積極的に行う。 ②生徒や保護者、地域のニーズに応じて、速やかに学校の情報を発信・伝達し、より良い学校づくりを行う。	①地域との連携・協力を積極的に行い、地域との関係性を、より良い学校づくりへ活かす。学校行事等、地域との交流の機会となるよう、開かれた学校づくりを進める。 ②-1 ICT機器や情報伝達アプリを活用して、生徒や保護者への速やかな情報伝達に努める。ホームページの更新回数を増やし、掲載内容等の工夫・改善を行い、速やかに発信していく。 ②-2 地域貢献デー、遊 ing 西高等に多くの生徒が主体的に参加し、地域との交流の機会を増やす。	①地域との交流の機会を設定し、参加人数や活動場が増加したか。保護者・地域から寄せられた情報・意見により学校運営が改善されたか。 ②-1 生徒・保護者への適切な情報提供を行うことができたか。ホームページ更新回数とともに内容の充実が見られたか。 ②-2 地域貢献デーを計画通り実施できたか。遊 ing 西高を生徒の主体的な計画で実施できたか。多くの参加者があったか。	①地域貢献デー、遊 ing 西高等、学校全体で関わりのある取組の他に、授業や部活動、委員会等、それぞれが地域との連携、地域の教育力を活かす取組を行っている。 ②-1 学校・家庭連絡システムを通して適切な情報提供が行えた。ホームページについて行事ごとに速やかに更新することを心掛けて取り組めた。 ②-2 地域貢献デーは地域の方とコミュニケーションを取りながら、清掃活動を行った。遊 ing 西高では、多くの小学生が参加し、生徒にとっても、小学生との交流はよい経験となった。	①生徒の学びを深め、発展させるためにも地域、保護者、同窓会等の学校を取り巻く教育力をより活用できるよう視野を広くもって計画していく。 ②-1 次年度の新たな学校・家庭連絡システムの導入に伴い、速やかに移行できるよう職員、家庭への周知を行う。また、ホームページの更新回数の増加や見やすい画面構成等、工夫と改善を行っている。 ②-2 地域貢献デー、遊 ing 西高に多くの参加者を迎えられるようにする。 ②-2 秋の地域貢献デーでは害虫の被害が出た。安全管理の課題が残った。時期、実施方法等を検討する。	①地域の行事への協力など大変助かっている。 ②-1 学校と家庭の結びつきは大事。新システムがその一助となることと考える。ホームページで学校の取組の紹介をさらに進めてほしい。 ②-2 世代間交流はよい刺激になる。地域との連携事業では、西高生が主導的な役割を担っている。	①授業や部活動、委員会等、それぞれが地域との連携、地域の教育力を活かす取組ができた。より幅広い連携の形を考える。 ②-1 ホームページを速やかに更新することができた。掲載画像等、素材の工夫を図る。 ②-2 地域との連携事業は計画通り実施することができた。怪我等の事故防止に一層注意する。	①学校、保護者、地域の3者連携を継続するとともに、地域の課題等、新たなテーマを模索する。 ②-1 ホームページの構成等、さらに見やすく分かりやすいものにする。 ②-2 遊 ing 西高を継続実施し、より多くの参加者あるよう工夫する。
5	学校管理・学校運営	①生活全般の安全意識を高め、自らの命を自ら守る防災意識を育む。 ②豊かな心を育む環境整備に努める。 ③ ICT利活用のインフラや新たなコンテンツ導入を中心とした整備を行う。	①学校全体で防災意識を高める指導を行い、災害時に備えて準備を進める。 ②校内や校舎周辺の環境の整備・美化について、保護者と連携しながら生徒の意識を高め、学校を大切にすることを育む。 ③グループ業務、教科等、学校教育活動の中で、さらに ICTの利活用を進め、効果的活用例を検討する等、より具体的で、組織的な取組とする。	①年2回の防災訓練を通して、自らの命を守る行動や社会に貢献する態度の自助・共助・公助の考え方を育てる。 ②PTAの協力を得て校内外の環境整備に努めることや、生徒環境整備委員の清掃点検や職員による清掃への呼びかけ・点検を実行し、日頃の環境美化意識を醸成する。 ③ ICT利活用を継続発展させていくため、より効果的な活用をめざし通信環境、備品の整備を行う。	①防災計画に基づいて、実践的な防災訓練を実施し、生徒や職員の防災意識が高まったか。 ②PTA環境整備委員会との連携を取ることができたか。また、生徒環境整備委員や職員の働きかけにより、校内各箇所が適切に清掃され環境美化意識が醸成されたか。 ③通信環境の改善や新たな ICT利活用が見られたか。	①防災計画に基づく年2回の防災訓練を実施し、生徒・職員の防災意識や安全行動が定着しつつある。 ②PTA環境整備委員会と連携し校内外の環境美化活動も進み、生徒の美化意識が向上した。 ③電子黒板を活用した授業が定着している。 ICT環境の通信環境が改善され、授業や学校業務での ICT活用がより円滑になった。	①2回目の防災訓練は、各学年それぞれ工夫のある訓練内容で実施した。訓練内容によって、時間枠が足りない状況が見られた。内容と時間枠とのバランスを検討していく必要がある。 ②環境美化では、一部の職員や生徒に偏る傾向があり、全校的な取組となるよう工夫が必要である。 ③生徒のタブレット端末を活用した授業実践が求められる。 ICT機器の強みをさらに生かし、効果的な活用を推進したい。新たに導入された機器の活用状況の改善を図りたい。	①様々な形態の防災訓練は工夫があってよい。地域合同の防災訓練の実施を検討できないか。 ②PTAは、引き続き、校内環境美化に協力していく。 ③電子機器等の強みを生かした授業を期待する。	①防災計画通り訓練を実施することができた。防災意識向上に資する内容を検討していく。 ②PTAとの連携を継続できた。 ③授業に必要な ICT環境を整備することができた。授業改善となる ICT機器の活用方法を引き続き考えていく。	①実施内容と必要な時間枠との調整を行う。 ②PTAと学校とがより協働的な取組となるよう両方で考えていく。 ③一人一台端末の活用機会を増やし、整備 ICT機器をより一層活用できるよう職員研修等を企画する。